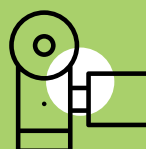


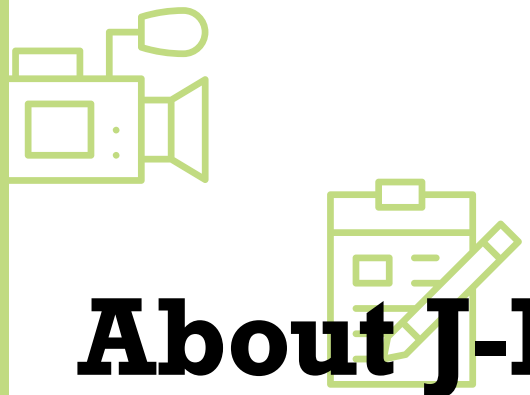
報道実務家

フォーラム

J-Forum 2025

4/25(金) → 4/27(日)





報道という仕事の面白さや意義を、
会社も媒体もエリアも越えて
熱く再認識できる貴重で素晴らしい機会

About J-Forum 報道実務家

幅広い学びとネットワークの場

報道実務家フォーラムは記者、編集者、ディレクターなどの報道実務家や、ジャーナリズムの実践に興味を持つ人が学び、話し合う場です。すぐれた報道を手がけた記者、ITや情報公開などの専門家による講座を通じ、取材技法を高め、知識を広げ、報道の自由や記者の権利への理解を深める幅広い研修の場ともいえます。同じ職業人としてネットワークを広げ、励まし合い、連帯を深めることができます。

報道界の力を向上させる

新聞・通信・放送の記者でつくる「取材報道ディスカッショングループ」と早稲田大学大学院政治学研究科ジャーナリズムコースの共催で2010年に始まりました。当初は単独の講座を年に数回開くスタイルでしたが、17年5月に初めて8講座を同時に開催する「拡大版」を開催しました。

以降、毎春の開催が定着し、講座と参加者数は着実に増えてきました。コロナ禍でオンラインだった20年と21年を経て、22年以降はリアル会場とオンラインのハイブリッドで開いています。24年には約750人と過去最多の参加があり、熱気あふれるイベントに成長しました。近年は記者研修の一環として参加費を社費で負担するメディアもあります。また、東京以外での開催も次々に実現しており、23年に大阪、24年以降は名古屋で2回、福岡では初めて報道実務家フォーラムが開かれました。

これは欧米の同業者たちが実践し、報道界の力を向上させる成果を上げてきたイベントをモデルにしています。たとえば米国の調査報道記者・編集者協会（IRE）は毎年6月に4日間の大会を催し、200を超える講座が開かれます。毎年開催都市を変え、会場のホテルは2000に上る参加者で活発な交流が行われます。さながら合宿のようです。

15年間の主な活動

（講師の肩書きはすべて当時、敬称略）

- 2010** 「特捜検事の証拠改ざんはこうやって明るみに出した」
板橋洋佳（朝日新聞記者）
など5回
- 2011** 「『ネットワークで作る放射能汚染地図』はこうして取材・放送した」
七沢潔（NHK放送文化研究所研究員・ディレクター）
- 2012** 「ニュースキャスターは原発事故をこうして伝えた」
松原耕二（TBS報道局解説委員）
など2回
- 2013** 「印刷工員胆管がん問題 私はどうして掘り起こした」
立岩陽一郎（NHK記者）
など2回

- 2014** 「デジタルジャーナリズムの挑戦～各国のメディア分析から」
デイヴィッド・レヴィー（英国オックスフォード大学ロイタージャーナリズム研究所長）ほか
- 2015** 「『米軍の壁』はこうしてこじ開けてきた」
斉藤光政（東奥日報編集委員兼論説委員）
など4回
- 2016** 「パナマ文書はこうして取材・報道している」
シッラ・アレッチ（国際調査報道ジャーナリスト連合=ICIJ）
など2回
- 2017** 報道実務家フォーラム（8講座）
「米国の記者たちは調査報道をどのように行っているのか」
マット・ゴールドバーグ（米調査報道記者・編集者協会理事長、KNBCテレビ報道局長）ほか

コロナ禍の2020年に業界に入り、孤独感やもどかしさも多かった。全国の皆さんとお話しできたことで記者として目指すべき方向性を再確認できた

多様なトピックに3日間かけて触れることで感度を高め、興味の幅を広げることができた。ベテランの先輩方の想いや熱意を受け継いでいける記者になりたい

フォーラムとは？



メディアを巡る状況が厳しい時代だからこそ、
こうしてノウハウを共有することが
全体の質向上につながると強く感じた



ジャーナリズム発展のため活動を拡大

20年には子育てをしながら報道に携わる人たちの知恵と経験を共有するサイト「BACK TO THE NEWSROOM」を開設しました。21年にはスローニュースと共に「調査報道大賞」を創設し、すぐれた調査報道をたたえ、社会に広く知らせる活動も始めました。23年には報道機関への就職を目指す大学生に入社試験向けの作文添削、面接練習などをする「就職活動支援ゼミ」をスタートさせました。若い世代や実務家以外の方々にジャーナリズムに関する理解を深めてもらいイベントやセミナーなども計画しています。将来的には記者・編集者の職能団体「日本記者協会」も構想しています。あらゆるジャーナリストの権利を保護し、拡大する団体です。活動の充実と継続のため、報道実務家フォーラムは19年、特定非営利活動法人（NPO法人）となりました。理事長の瀬川至朗・東京大学大学院情報学環特任教授（毎日新聞出身）、事務局長の澤康臣・早稲田大学教授（共同通信出身）のほか、理事の熊田安伸（SlowNews、NHK出身）、ボランティアスタッフの日下部聡（毎日新聞）、浅井弘美、角雄記（中日新聞）、松井健太郎（共同通信）、外山薫（テレビ朝日）など多くの現役ジャーナリストが運営を支えています。

こうした活動は趣旨に賛同してくださった多くの方々の寄付で支えられています。



寄付は
こちらから

- 2018** 報道実務家フォーラム（19講座）
- 2019** 「ネット情報収集のウラ技」
ポール・マイヤーズ（英BBCネットリサーチ担当）
報道実務家フォーラム（30講座）
報道実務家フォーラムin青森（5講座と三沢基地周辺視察）
- 2020** 報道実務家フォーラムオンライン（14講座）
- 2021** 報道実務家フォーラムオンライン（6講座）
調査報道大賞スペシャル（4講座）
- 2022** 報道実務家フォーラム（50講座）
調査報道大賞スペシャル（7講座）

- 2023** 報道実務家フォーラム（47講座）
報道実務家フォーラムin関西（4講座）
調査報道大賞スペシャル（7講座）
- 2024** 報道実務家フォーラムin名古屋（4講座）
報道実務家フォーラム（57講座）
調査報道大賞スペシャル（6講座）
- 2025** 報道実務家フォーラムin名古屋（4講座）
報道実務家フォーラムin九州（6講座）

※2017年以降の詳細は
QRコードからウェブサイトをご覧ください



〈凡例〉



報道／ストーリーの背景



メディアのこれから



ネットワーキング



IT／データの活用



知識とスキル



オンライン中継あり

井深大記念ホール

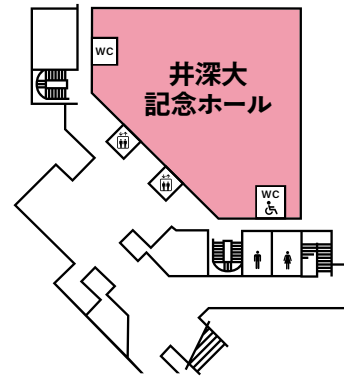
4月25日(金)	17:00-18:20	01 「いじめ」をどう取材するか。 スクープ連発の西日本新聞に聞く 古川大二、長田健吾、坂本信博（西日本新聞）	p.6
	休憩・セッティング		
	18:40-20:00	02 災害から選挙まで知られざる実像を可視化! 人流データの革命 柴山和久、加藤有祐（Agoop）	p.7

第1会議室

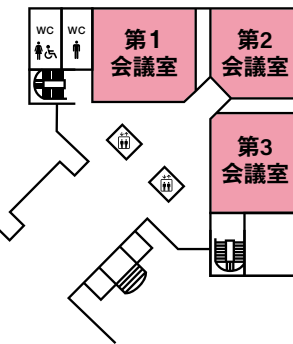
4月26日(土)	9:30-10:50	03 再演 初心記者「基本のキ」 だけど本質的かもしれない話 奥山俊宏（上智大学） 澤康臣（早稲田大学）	p.7	04 狭い地域社会でなぜ次々と不正を 暴けるのか〜屋久島ポストの挑戦 武田剛（屋久島ポスト）	p.8
	11:10-12:30	07 再演 続・初心記者「基本のキ」 だけど本質的かもしれない話 奥山俊宏（上智大学） 澤康臣（早稲田大学）	p.9	08 「スクールジャーナリズム」から考える 報道の未来 鈴木真由美（滋賀県立虎姫高校） 岡本健（大阪府守口市立藤田小学校） 尾高泉（前ニュースパーク館長）	p.10
	ランチタイム				
	13:30-14:50	11 ありえなかったメディアの連携で 児童ポルノの闇にどう迫ったのか 辻麻梨子、渡辺周（Tansa） 大間千奈美（NHK）	p.11	12 調査報道の新潮流をつくる 〜フロンティアプレススクープから 高田昌幸、伊澤理江、高宗亮輔、西岡千史 （フロンティアプレス）	p.12
	15:10-16:30	15 もう待たない! 気候変動を どう毎日のニュースにするか オードレ・セルドン（フランステレビジョン） 堅達京子（NHKエンタープライズ） 青木紀美子（NHK）	p.13	16 前代未聞の兵庫県知事選 現場の記者たちは何と向き合ったのか 島脇健史（朝日新聞） 前川茂之（神戸新聞） 山田健太（専修大学）	p.14
	16:50-18:10	19 ドキュメンタリーを作り続ける力 ―業務との両立、映画化方法等― 立川直樹（広島ホームテレビ） 土方宏史（東海テレビ）	p.15	20 SNSと選挙取材を考える 兵庫県知事選の取材メモから 関俊一（読売新聞）	p.16
19:00-21:00 懇親交流会（場所：大隈ガーデンハウス 会費：5500円）					

早稲田大国際会議場 | FLOOR MAP

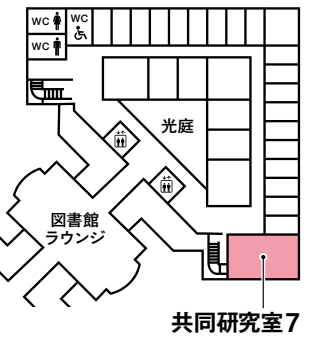
1F



3F



4F



第2会議室

第3会議室

05 疑惑の2000億円ファンド 不動産専門誌が追った消費者被害	p.8	06 ハンズオン講座 衛星データの基礎を学ぼう 菅谷智洋（株式会社Tellus）	p.9
09 企業や当局が隠したがるPFAS汚染、 どう取材しているのか 諸永裕司（フリーランス）	p.10	10 Re:Earthで学ぶ 3D洪水浸水シミュレーション 嶋谷理美（株式会社ユーカリヤ）	p.11
ランチタイム			
13 中小企業が喰われる 「M&A仲介の罠」を追った取材技法 藤田知也（朝日新聞）	p.12	14 サイバーセキュリティの取材現場から 福田陽平（NHK）	p.13
17 沖縄の自衛隊基地をどう取材する、 どう伝える 塚崎昇平（琉球朝日放送）	p.14	18 ジェンダー企画の通し方 上司の“声がけあるある”分析&対処法 岡林佐和（朝日新聞） 蓮見朱加（神奈川新聞） 溝上由夏（テレビ朝日）	p.15
21 反ヘイト報道 なぜ訴えられどう対応したか 秋山理砂、石橋学（神奈川新聞）	p.16	22 持続可能な報道ポッドキャスト交流会 菅野蘭（毎日新聞）	p.17
懇親交流会（場所：大隈ガーデンハウス 会費：5500円）			
26 政治とカネの取材ポイントが一目瞭然! ベテラン記者に基礎を学ぶ 安井俊樹（NHK）	p.19	27 一時は上司から取材ストップも 冤罪事件を追った記者の全内幕 遠藤浩二（毎日新聞）	p.19
30 スクープ連発! 報道特集の政治とカネ報道の裏側 成田広樹（TBS） 毛田千代丸（チューリップテレビ）	p.21	31 より良い被害者取材を求めて 加藤美喜（中日新聞）	p.21
ランチタイム			
33 兵庫県知事選中 SNSで拡散したデマをどう報じたのか 青琴祐（TBS）	p.22	34 一歩先行く情報公開制度活用法 三木由希子（情報公開クリアリングハウス）	p.23
38 しっかり報じるためのメディア法 報道のため闘う弁護士が語ります 喜田村洋一弁護士	p.25	39 vs厚労省 情報公開、 黒塗りめぐる5年の攻防 賛川俊（朝日新聞）	p.25
42 メディアはどうすれば生き残れるのか? コンサルから見た課題とは 栗原岳史（PwC）	p.27	43 内部告発への対応どうするか 鹿児島県警と兵庫県から教訓を学ぶ 横枕嘉泰（鹿児島放送） 奥山俊宏（上智大学）	p.27
23 海外留学ヘルプデスク 〜挑戦を阻む4つの壁をどう乗り越えるか〜 石原真樹（東京新聞） 宮崎稔樹（スローニュース）			
32 仕事のモヤリをシェアして処方箋を 考えよう（U49 限定） 外山薫（テレビ朝日） 松井健太郎（共同通信）			
37 記者・デスクのための 法的支援団体を弁護士と語ろう 廣田智子弁護士 池田雅子弁護士 澤康臣（早稲田大学）			

共同研究室7

4月27日(日)	9:30-10:50	24 ニュースメディアのための ファクトチェック実践講座 旗智広太（NHK）	p.18	25 足かけ7年「東京女子医大の闇」を 暴き続けたスクープの裏側 岩澤倫彦（フリーランス）	p.18
	11:10-12:30	28 オープンデータ活用術 「改訂版」にも未掲載の最新テクニック! 熊田安伸（スローニュース）	p.20	29 「メディア不信」にどう向き合うか 津田正太郎（慶應義塾大学） 日下部聡（毎日新聞）	p.20
	ランチタイム				
	13:30-14:50	33 兵庫県知事選中 SNSで拡散したデマをどう報じたのか 青琴祐（TBS）	p.22	34 一歩先行く情報公開制度活用法 三木由希子（情報公開クリアリングハウス）	p.23
	15:10-16:30	38 しっかり報じるためのメディア法 報道のため闘う弁護士が語ります 喜田村洋一弁護士	p.25	39 vs厚労省 情報公開、 黒塗りめぐる5年の攻防 賛川俊（朝日新聞）	p.25
	16:50-18:10	42 メディアはどうすれば生き残れるのか? コンサルから見た課題とは 栗原岳史（PwC）	p.27	43 内部告発への対応どうするか 鹿児島県警と兵庫県から教訓を学ぶ 横枕嘉泰（鹿児島放送） 奥山俊宏（上智大学）	p.27

26 政治とカネの取材ポイントが一目瞭然! ベテラン記者に基礎を学ぶ 安井俊樹（NHK）	p.19	27 一時は上司から取材ストップも 冤罪事件を追った記者の全内幕 遠藤浩二（毎日新聞）	p.19
30 スクープ連発! 報道特集の政治とカネ報道の裏側 成田広樹（TBS） 毛田千代丸（チューリップテレビ）	p.21	31 より良い被害者取材を求めて 加藤美喜（中日新聞）	p.21
ランチタイム			
33 兵庫県知事選中 SNSで拡散したデマをどう報じたのか 青琴祐（TBS）	p.22	34 一歩先行く情報公開制度活用法 三木由希子（情報公開クリアリングハウス）	p.23
38 しっかり報じるためのメディア法 報道のため闘う弁護士が語ります 喜田村洋一弁護士	p.25	39 vs厚労省 情報公開、 黒塗りめぐる5年の攻防 賛川俊（朝日新聞）	p.25
42 メディアはどうすれば生き残れるのか? コンサルから見た課題とは 栗原岳史（PwC）	p.27	43 内部告発への対応どうするか 鹿児島県警と兵庫県から教訓を学ぶ 横枕嘉泰（鹿児島放送） 奥山俊宏（上智大学）	p.27
35 超初心者でもできる! 地図で防災情報やデータを可視化しよう 角雄記（中日新聞）	p.23	36 クラブ詰め記者が 「府警本部長『殺すぞ』暴言」スクープを 放つまで 上口祐也（京都新聞）	p.24
40 潜入取材の達人がユニクロや 兵庫県知事選をどう取材したのか 横田増生（フリーランス）	p.26	41 今や取材の常道! 刑事裁判記録の 閲覧でスクープを書くには 大場弘行（毎日新聞） 小沢慧一（東京新聞）	p.26
44 無期懲役囚たちと文通を続ける記者に ノウハウを聞く 一宮俊介（弁護士ドットコム）	p.28		
32 仕事のモヤリをシェアして処方箋を 考えよう（U49 限定） 外山薫（テレビ朝日） 松井健太郎（共同通信）			
37 記者・デスクのための 法的支援団体を弁護士と語ろう 廣田智子弁護士 池田雅子弁護士 澤康臣（早稲田大学）			

J-Forum 2025 Program

あのスクープどう取った？ 調査報道はどう進める？ 企画はどんな切り口で？

- **報道／ストーリーの背景**
特ダネや好企画の端緒、視点、取材手法などを担当者が語る
- **知識とスキル**
積極的な報道のために知っておきたい法律や倫理、テクニックなど
- **IT／データの活用**
オンラインツールの使い方やデータジャーナリズムの実践
- **ネットワーキング**
ラウンドテーブル形式でじっくり議論し、つながりをつくる場
- **メディアのこれから**
発信やマネジメントのあり方など新時代のメディアを考える
- **オンライン中継あり**

01  **4/25（金） 17:00-18:20**
井深大記念ホール

「いじめ」をどう取材するか。 スクープ連発の 西日本新聞に聞く

「いじめ問題を追う」は、施行から10年を経たいじめ対策推進法の課題に迫るキャンペーン報道。「着替えを盗撮された高校生といじめた側の双方に謝罪会をさせる学校のおかしな対応」「町長が不適切な介入」など具体的な事例を独自に追いつつ、制度の問題を突き詰めています。「国のいじめ統計に漏れがあり実数の半分だった」というスクープも次々発信しています。取材が難しいテーマにどう取り組んでいるのか話していただきます。

古川大二
ふるかわ・だいじ
西日本新聞
東京支社報道部



1986年、広島県生まれ。長野県の地方紙を経て2016年4月に西日本新聞に入社。熊本総局、本社社会部の福岡県警担当、遊軍などを経て24年8月から現職。

長田健吾
おさだ・けんご
西日本新聞
報道センター記者



1994年生まれ。神奈川県出身。2017年入社。社会部、熊本総局などを経て現職。「新 移民時代」取材班で外国人技能実習生を巡る問題などを取材。23年から「いじめ問題を追う～防止法10年～」を担当し、新聞労連ジャーナリズム大賞優秀賞受賞。現在は取材班キャップ。

坂本信博
さかもと・のぶひろ
西日本新聞
編集局報道センター総合デスク



1972年福岡市生まれ。99年入社。2017年「新 移民時代」、18年「あなたの特命取材班」創設、22年北京特派員として新疆ウイグル自治区の強制不妊疑惑を巡る調査報道で各種の賞を受賞。「いじめ問題を追う～防止法10年～」の担当デスク。24年8月から現職。

02  **4/25（金） 18:40-20:00**
井深大記念ホール

災害から選挙まで知られざる 実像を可視化！ 人流データの革命

スマホの位置情報から人の流れを可視化したデータがいま報道を大きく変えようとしています。Agoop社は能登半島地震で通行可能な道路や孤立集落などをいち早く可視化。データはメディアにも提供し、日本経済新聞は珠州市での避難行動を可視化して検証。兵庫県知事選では立花氏のコバンザメ戦略が可視化され、大阪や京都から訪れた40代男性が多数だったことなどを明らかに。メディアとの連携実績や今後の可能性を語ってくれます。

柴山和久
しばやま・かずひさ
株式会社 Agoop
取締役会長



2003年ソフトバンクBB株式会社（当時）入社。「地理情報システム（GIS）」を活用したデータ解析システムの企画開発に携わる。09年ソフトバンクのグループ会社として株式会社Agoop設立、取締役就任。12年ソフトバンクモバイル株式会社（現ソフトバンク株式会社）情報企画統括部統括部長を兼務。スマートフォンから位置情報ビッグデータを収集・解析し、世界初となるビッグデータを活用したネットワーク品質改善システムを構築。ソフトバンクモバイル株式会社（当時）のネットワーク改善に貢献。13年Agoop代表取締役に就任。15年ソフトバンク株式会社ビッグデータ戦略本部長就任。19年Agoop代表取締役社長兼CEOを本務とし、ソフトバンク株式会社ビッグデータ戦略室を兼務。21年順天堂大学大学院医学研究科客員教授就任。24年Agoop取締役会長就任。株式会社SB TEMPUS取締役CDO就任。

加藤有祐
かとう・ゆうすけ
株式会社 Agoop
代表取締役社長



2007年新卒でソフトバンクBB株式会社に入社。フロント開発エンジニアとしてWeb型のGISシステムの開発に従事。09年にソフトバンクの子会社である株式会社Agoopの立ち上げに参画。15年に取締役兼CTOに就任。24年7月よりソフトバンク株式会社ビッグデータ戦略室室長とAgoopの代表取締役社長兼CEOに就任。

03  **4/26（土） 9:30-10:50**
井深大記念ホール

再演 初心記者「基本のキ」 だけど本質的かもしれない話

初心記者のための「『基本のキ』だけど本質的かもしれない話」、今年もやります。昨年までの再演を主とし「なぜ実名を報道すべきなのか」「中立が正しいのか」「客観的であるとは」「報道とは？ 記者の存在意義は」とか、記者が心得るべき基本のキに関して、記者出身の大学教員から一つの解をお示しします。

記者になったばかりの人が、意味を良く理解して仕事に取り組めるよう導くような講座を目指します。しかし…（「続」へ）

奥山俊宏
おくやま・としひろ
上智大学
教授



1989～2022年、朝日新聞記者33年（社会部、特別報道部など）。2022年から上智大学文学部新聞学科教授。著書に『内部告発のケーススタディから読み解く組織の現実 改正公益通報者保護法で何が変わるのか』（朝日新聞出版）、『バブル経済事件の深層』（岩波書店）、『秘密解除 ロッキード事件 田中角栄はなぜアメリカに嫌われたのか』（岩波書店）など。司馬遼太郎賞、日本記者クラブ賞を受賞。

澤康臣
さわ・やすおみ
早稲田大学
教育・総合科学術院教授



ジャーナリスト。早稲田大学教授（ジャーナリズム論）。1990～2020年共同通信記者。タックスヘイブンの秘密を明かした「パナマ文書」報道のほか、「外国籍の子ども1万人超の就学不明」「虐待増え子ども施設限界、ピーク時定員150%も」「戦後憲法裁判の記録、大半を裁判所が廃棄」などを独自取材で報じた。著書に『事実はどこにあるのか 民主主義を運営するためのニュースの見方』（幻冬舎新書）、『グローバル・ジャーナリズム 国際スクープの舞台裏』（岩波新書）、翻訳書に『ジャーナリストの条件 時代を超える10の原則』（新潮社）。

狭い地域社会で なぜ次々と不正を暴けるのか ～屋久島ポストの挑戦

「屋久島ポスト」は人口11000人の鹿児島県屋久島町で活動する市民メディア。報道機関による監視の目が届かない危機感から立ち上げられ、「町長の交際費問題」「水道工事の補助金不正」「町営牧場での過労死」など、屋久島町政を監視する報道を次々発信。いずれも本格的な調査報道の手法を使った骨太のものばかりです。様々な妨害を受けながら、なぜ報じ続けられるのか。共同代表の武田剛さんからその内幕を聞きます。

武田剛

たけだ・つよし

市民メディア「屋久島ポスト」
共同代表



1967年生まれ。20年勤めた朝日新聞では、写真記者や編集委員として南極や北極で環境取材をしたのち、2012年に退職。世界遺産の屋久島に移住して自然環境をテーマに取材を始めたが、町役場も覗くと不正が次々と発覚。町幹部の旅費不正精算では230万円超が着服され、補助金不正請求事件では国が1668万円の返還命令を出し、さらに町長は交際費で国会議員に高額贈答も。環境取材どころではなく、住民有志と調査報道を続けている。

疑惑の2000億円ファンド 不動産専門誌が追った 消費者被害

東京近郊の原野などを舞台に、歴史的な規模での消費者被害の発生が懸念されています。行政の監督を出し抜き、30億円の土地を2000億円超の商品に仕立てた投資事業のカラクリとは―。大手各社が足踏みするなか、日経不動産マーケット情報は得意の登記簿調査をはじめ、専門誌の分析力で本件でのスクープを連打してきました。裁判記録や情報公開、ITなどを活用した取材手法も交え、知られざる危機の実態を語ります。

ハンズオン講座 衛星データの基礎を学ぼう

地球の軌道上にある人工衛星は、衛星から写真を撮っているだけではなく、植物の活性度や海水面の温度などを解析できるデータもあります。国内外の衛星データを提供するプラットフォームTellusを使って、衛星データの基礎を学びましょう。Tellus(<https://www.tellusxdp.com/ja/>)で事前にアカウントを作成(無料)して、パソコンを持参してください。

菅谷智洋

すがや・ともひろ

株式会社 Tellus
ビジネス開発部



求人広告会社にて広告制作、広告審査などの業務に従事後、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)第一宇宙技術部門にて人工衛星の広報担当、望遠鏡メーカーでの営業事務を経て、2018年10月よりさくらインターネット株式会社に衛星データの利用促進に係るラーニングイベント、コミュニティイベントなどの企画・運営を担当。25年4月から現職。

再演 続・初心記者 「基本のキ」だけど 本質的かもしれない話

「『基本のキ』だけど本質的かもしれない話」の延長戦版です。「原稿を取材相手に見せてまずい場合と見せるべき場合」とか、「取材対象者と良い関係を築くには?」とか、取材の手順とか、「力ある者による性加害に関する日米の調査報道の比較」とか、議論の素材を提供します(上記をすべて網羅しきれない場合もあり得ますことをお含み置ください)。ベテラン記者の間でも意見が分かれる奥深い論点が含まれているかも。

奥山俊宏

おくやま・としひろ

上智大学
教授



1989～2022年、朝日新聞記者33年(社会部、特別報道部など)。2022年から上智大学文学部新聞学科教授。著書に『内部告発のケーススタディから読み解く組織の現実 改正公益通報者保護法で何が変わるのか』(朝日新聞出版)、『バブル経済事件の深層』(岩波書店)、『秘密解除 ロッキード事件 田中角栄はなぜアメリカに嫌われたのか』(岩波書店)など。司馬遼太郎賞、日本記者クラブ賞を受賞。

澤康臣

さわ・やすおみ

早稲田大学
教育・総合科学学術院教授



ジャーナリスト。早稲田大学教授(ジャーナリズム論)。1990～2020年共同通信記者。タックスヘイブンの秘密を明かした「パナマ文書」報道のほか、「外国籍の子ども1万人超の就学不明」「虐待増え子ども施設限界、ピーク時定員150%も」「戦後憲法裁判の記録、大半を裁判所が廃棄」などを独自取材で報じた。著書に『事実はどこにあるのか 民主主義を運営するためのニュースの見方』(幻冬舎新書)、『グローバル・ジャーナリズム 国際スクープの舞台裏』(岩波新書)、翻訳書に『ジャーナリストの条件 時代を超える10の原則』(新潮社)。

08



4/26 (土) 11:10-12:30

第1会議室

「スクールジャーナリズム」から考える報道の未来

ジャーナリズムの未来は若い世代にかかっています。新聞もテレビも縁遠くなりつつある子どもたちに、報道の意義や面白さを知ってもらわなければなりません。学校新聞を熱心に指導してきた現役教員の鈴木真由美さん、岡本健さんと、教育とメディアの関係に詳しい尾高泉さんに、学校におけるジャーナリズムの魅力を語り合ってください。参加者の皆さんと報道と教育のコラボレーションの可能性を探ります。

鈴木真由美

すずき・まゆみ

滋賀県立虎姫高等学校
教諭、新聞部顧問

1986年～滋賀県の高校教員。1993～2015年県立彦根東高、16年以降県立虎姫高で新聞部顧問。虎姫高では学校新聞を24年ぶりに復刊。全国高等学校総合文化祭では彦根東で8年連続、虎姫で6年連続最優秀賞を受賞。地域にも目を向けた新聞を部員たちと楽しく製作している。

岡本健

おかもと・たける

大阪府守口市立藤田小学校
教諭

1984年生まれ。大阪府出身。2007年教員採用。18年より大阪シティズンシップ研究会のメンバーとともに、NIEを活用した「シティズンシップ教育」を研究。「こども新聞」を通して、地域との交信が続けている。

尾高泉

おだか・いずみ

「教育とメディア」のcommons・キュレーター、日本NIE学会常任理事、元日本新聞博物館館長



1987年慶應義塾大学法学部卒、日本新聞協会入職。教育事業（NIE）などをサポートした後、ニュースパーク（日本新聞博物館）館長。2024年定年退職。現在は、新聞社の教育事業等アドバイザーなどとして活動。

09



4/26 (土) 11:10-12:30

第2会議室

企業や当局が隠したがるPFAS汚染、どう取材しているのか

全国各地で大きな問題になっているPFAS汚染。飲み水の基準を策定する専門家会議が裏で非公開の会合を開き、評価のもととなる参照論文の大半を差し替えていたことが発覚しました。この問題をスクープした諸永裕司さんはこれまでも大手化学メーカーや防衛省の内部資料を独自入手し、次々と報じています。情報が隠された困難な取材にどう挑むか、その秘訣を語ってもらいます。

諸永裕司

もろなが・ゆうじ

フリーランス
ジャーナリスト

PFAS汚染の取材をはじめて7年。スローニュースを中心に活動。著書に『消された水汚染「永遠の化学物質」PFOS・PFOAの死角』（平凡社新書）、『沖縄密約 ふたつの嘘』（集英社文庫）、『葬られた夏 追跡・下山事件』（朝日文庫）。共編著に『筑紫哲也』（週刊朝日MOOK）。沢木耕太郎著『杯（カップ）』のもととなる連載を企画・編集。2023年まで勤務した朝日新聞社では、奨学金、生活保護、冤罪のほか、アフガニスタン戦争、イラク戦争、安楽死などで海外取材も。

10



4/26 (土) 11:10-12:30

第3会議室

Re:Earthで学ぶ3D洪水浸水シミュレーション

基礎知識なしでも3D都市モデルや浸水シミュレーションを可視化できるWeb GISプラットフォーム「Re:Earth」と、国土交通省主導の3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化プロジェクト「PLATEAU」のデータを活用し、3D洪水浸水シミュレーションマップを作成します。初心者でも直感的に操作できるため安心してご参加ください。事前準備はWeb「講座の詳細」をご参照ください。

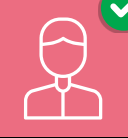
嶋谷理美

しまたに・さとみ

株式会社ユーカリヤ
カスタマーサクセス

兵庫県出身。株式会社ユーカリヤでカスタマーサクセスを担当。「Re:Earth」の講習会内容やサポートサービスの計画等に関わり、ユーザーが使いやすいと感じるサポートを提供できるよう努めている。顧客のニーズに応えられるよう、日々学びながらサポート提供を心がけている。

11



4/26 (土) 13:30-14:50

井深大記念ホール

ありえなかったメディアの連携で児童ポルノの闇にどう迫ったのか

調査報道で重要なのは、変化をもたらすこと。TansaとNHKは、児童ポルノビジネスについてNHKスペシャル「調査報道 新世紀」で共同取材を実施。一連の報道では、IT大手GoogleやAppleが犯罪の温床であるアプリを削除するなど、事態が動いた。強固なファクトを集めたTansaと、広い取材網と発信力を持つNHK。それぞれの強みを持ち寄ったコラボレーションの裏側と、インパクトを生み出すための報道手法を語る。

辻麻梨子

つじ・まりこ

Tokyo Investigative Newsroom Tansa
リポーター

1996年生まれ。早稲田大学卒。創刊時からTansaに参加し「製薬マネーデータベース」の作成や強制不妊手術の被害者補償などについて報じた。2022年からデジタル性暴力の問題に取り組む。シリーズ「誰が私を拡散したのか」で、22年ジャーナリズムXアワード大賞。

渡辺周

わたなべ・まこと

Tokyo Investigative Newsroom Tansa
編集長

2000年日本テレビから朝日新聞に移籍。連載「プロメテウスの罠」を執筆。17年調査報道に特化したワセダクロニクル（現Tansa）創刊。Tansaでは電通と共同通信のステマ問題や製薬マネー、北朝鮮による日本人核科学者拉致疑惑を手がける。日本外国特派員協会「報道の自由推進賞」。著書に『消えた核科学者』（岩波書店）など。

大間千奈美

だいま・ちなみ

NHK
ディレクター

2018年NHK入局。東京・国際番組組、名古屋局、現おはよう日本部。LGBTQ+や性暴力、名古屋入管で亡くなったウィシュマ・サンタマリさんのドキュメンタリー番組など制作してきた。

12



4/26 (土) 13:30-14:50

第1会議室

調査報道の新潮流をつくる ～フロントラインプレスのスcoopから

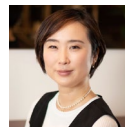
スローニュース上で次々と骨太の調査報道を発信するフロントラインプレスのメンバーが登壇! 高齢者を突然連れ去る「行政の“犯罪”」を追う西岡千史さん。「警察の証拠改ざん疑惑」などの取材で連携した熊本日日新聞の高宗亮輔さん。大宅賞、本田靖春ノンフィクション賞など各賞総なめの『黒い海』の著者・伊澤理江さん。いずれもネットの時代だからこそその現場での丁寧な取材の経験について語っていただきます。モデレーターは高田昌幸代表です。

高田昌幸

たかだ・まさゆき
フロントラインプレス
代表

東京都市大学メディア情報学部教授／北海道新聞、高知新聞で記者30年。受賞、著書多数

伊澤理江

いざわ・りえ
フロントラインプレス
ジャーナリスト

会社員を経て『黒い海 船は突然、深海へ消えた』(講談社)で2023年大宅社一ノンフィクション賞ほか。

高宗亮輔

たかむね・りょうすけ
熊本日日新聞
記者

2008年入社。政経部、菊池支局を経て23年から東京支社編集部。フロントラインプレスにも所属。

西岡千史

にしおか・ゆきふみ
フロントラインプレス
フリーランス記者

1979年生まれ。早稲田大卒。「週刊朝日」編集部などを経て現職。農業、福祉、パラスポーツなどを取材。

13



4/26 (土) 13:30-14:50

第2会議室

中小企業が喰われる 「M&A仲介の罠」を追った 取材技法

後継者難に悩む中小企業と、その経営を買い取る会社をつなぐ「M&A仲介ビジネス」。生産性向上につながるとして国も支援するが、買い手が経営者保証を引き継ぐ約束を実行せずに売り手の現預金を吸い上げるなど、裏側でトラブルが頻発していました。朝日新聞の藤田知也記者は中小企業を食い物にする実態を緻密な取材で暴きました。どうやって悪質な事例を探り、関係者に迫ったのか。取材のノウハウや舞台裏を語っていただきます。

藤田知也

ふじた・ともや
朝日新聞
記者

早稲田大学大学院修了後、2000年に朝日新聞社入社。盛岡支局を経て02～12年に「週刊朝日」記者。その後は経済部などに所属。著書に『郵便局の裏組織「全特」——権力と支配構造』(光文社)、『郵政腐敗 日本型組織の失敗学』(光文社新書)、『やっちはいけない不動産投資』(朝日新書)、『日銀バブルが日本を蝕む』(文春新書)など。近く『M&A仲介の罠(仮題)』を出版予定。

14



4/26 (土) 13:30-14:50

第3会議室

サイバーセキュリティの 取材現場から

ランサムウェアやDDoS攻撃、不正アクセスによるデータ漏洩などのサイバー攻撃が後を絶ちません。被害を受ける企業・組織の分野も場所も様々です。その取材に当たる記者は、どこでどのように取材をしているのでしょうか。サイバーの世界を追ってきた専門記者が取材の裏側を語り、必要な視点や知識を参加者と共有します。

福田陽平

ふくだ・ようへい
NHK
報道局 科学文化部記者

サイバーセキュリティを専門に取材しています。ランサムウェアをはじめとしたサイバー犯罪に加え、最近では、北朝鮮やロシアなど、国家が背景にいると指摘されるサイバー攻撃の実態について取材しています。去年は、ネット上に流出した中国のセキュリティ企業の「内部文書」について、世界各国の専門家とともに調査。中国の「認知戦」の実態を「NHKスペシャル」などで伝えました。

15



4/26 (土) 15:10-16:30

井深大記念ホール

もう待ったなし! 気候変動を どう毎日のニュースにするか

気候変動の問題は深刻ですが、報道は十分に伝えきれていません。日々の気象や社会の動きにあわせて可視化・解説するにはどうすれば。フランステレビジョンの気象環境報道のリーダーで、メディアの報道を支援する科学者のネットワーク設立にも携わったオードレ・セルドン氏が具体的な手法を解説。日本のメディアと科学者の連携の可能性について、気候変動の番組を多数制作したNHKエンタープライズの堅達京子氏に話を聞きます。※本講座はNHK放送文化研究所・早稲田大次世代ジャーナリズム・メディア研究所との共催です

オードレ・セルドン

おーどれ・せるどん
フランス・テレビジョン
気候変動報道リーダー

2022年、フランスの気候科学者とジャーナリストの橋渡しをするネットワークExpertises Climatの設立に携わり、2023年にはフランス・テレビジョンの天気予報を「気象と気候を伝えるジャーナル」に見直したフランスの気候変動報道の先駆者。

堅達京子

げんだつ・きょうこ
NHK エンタープライズ
エグゼクティブ・プロデューサー・日本
環境ジャーナリストの会副会長

気候変動やSDGsをテーマにNHKスペシャルなど多数の番組を取材・制作。2022年から毎年、NHKと民放の6局連動特番『1.5℃の約束 いますぐ動こう、気温上昇を止めるために』を企画。

青木紀美子

あおき・きみこ
NHK 放送文化研究所
研究主幹

NHK広島放送局、社会部、国際部、NY、ロンドン、バンコク駐在などを経て2018年から現職。メディアと地域社会や市民との連携・協働、多様性の問題などについて調査。

16



4/26 (土) 15:10-16:30

第1会議室

前代未聞の兵庫県知事選 現場の記者たちは 何と向き合ったのか

昨年の兵庫県知事選には異様な光景がありました。デマや中傷を交えてSNSで広がる情報の嵐や「2馬力選挙」。報道は「既得権益」とされ、「オールドメディアの敗北」とまで言われました。では、その最前線にいた記者たちは何を見聞きし、何と向き合ったのでしょうか。神戸新聞の前川茂之記者と朝日新聞の島脇健史記者による現場報告に加え、山田健太・専修大教授に「メディアは何ができて、できなかったのか」を語ってもらいます。

島脇健史

しまわき・たけし

朝日新聞
神戸総局サブデスク

気象予報士・防災士。神戸大学法学部卒、2000年入社。香川、奈良、大阪、兵庫で勤務し、地方行政・選挙の取材は20年以上。兵庫県政は計4年担当。高校生の時に経験した阪神・淡路大震災関連の取材は10年以上続けている。

前川茂之

まえかわ・しげゆき

神戸新聞
報道部記者

2004年入社。丹波総局や阪神総局を経て17年から本社報道部。24年3月から兵庫県政キャップ。事件事故担当を12年経験。尖閣諸島中国漁船衝突映像流出事件、尼崎JR脱線事故などを取材。

山田健太

やまだ・けんた

専修大学
ジャーナリズム学科教授

専門は言論法、ジャーナリズム研究。日本ペンクラブ副会長、自由人権協会や情報公開クリアリングハウスの理事など。『法とジャーナリズム〈第4版〉』（勁草書房）など著書多数。キュレーターとして日本新聞博物館「デジタルフォトジャーナリズム展」など。

17



4/26 (土) 15:10-16:30

第2会議室

沖縄の自衛隊基地を どう取材する、どう伝える

南西諸島で進む自衛隊配備「南西シフト」は何のため、どういう背景があり、地域住民はどう考えているのか。防衛力強化と地域振興が複雑に絡み合う中での住民感情は、賛否といった単純な構図では語れません。日本最西端の与那国島を中心とした南西諸島の島々の他、各地で取材を続けてシリーズ報道に取り組んでいる琉球朝日放送の塚崎昇平記者に、自衛隊と地域住民の関係性についての取材・報道の在り方を話していただきます。

塚崎昇平

つかざき・しょうへい

琉球朝日放送
報道制作部記者

1991年、大分県生まれ。琉球新報記者を経て、2022年から琉球朝日放送報道制作部。ディレクターを務めたQAB報道特別番組「誰のために島を守る～自衛隊配備その先に～」(2024年)が、日本民間放送連盟賞番組部門テレビ報道優秀賞、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞草の根民主主義部門奨励賞。

18



4/26 (土) 15:10-16:30

第3会議室

ジェンダー企画の通し方 上司の“声がけあるある” 分析&対処法

実はあるある？ ジェンダーをめぐる企画における“社内の困難”を可視化します。この講座では記者らへのアンケートを通じ、ジェンダー格差や女性、性的マイノリティ、こどもにフォーカスした企画を提案したとき、上司などからかけられた言葉を集めて分析、パターンごとの打開策も提示します。「私の伝え方が悪かったのかな？」と悩みがちな“ジェンダー企画あるある”を共有し合うことで、取材者を後押しします。

岡林佐和

おかばやし・さわ

朝日新聞
経済部 記者

2004年朝日新聞に入社。経済部で省庁や民間企業などを取材しつつ、男女賃金格差や女性議員の少なさなどジェンダーにかかわる問題についても発信を続ける。

蓮見朱加

はすみ・あやか

神奈川新聞
経営戦略本部 DEi 推進室 / 室員

大学院修了後、2013年神奈川新聞入社。報道部、文化部を経て休職し、スコットランドに留学。20年報道部で双方向報道「追う! マイ・カナガワ」を担当。メディアの中の多様性、政治、防災、スポーツの視点でジェンダー報道に携わる。24年5月「神奈川新聞社DEi宣言」発出に伴い、経営戦略本部DEi推進室に異動。

溝上由夏

みぞうえ・ゆか

テレビ朝日
「ABEMA GLOBE」プロデューサー／
「ABEMA ヒルズ」デスク

2005年入社、ディレクター、社会部を経て現職。ドキュメンタリー「女性議員が増えない国で」がメディア・アンビシャス大賞優秀賞。スーパーJチャンネルで隠れ待機児童問題や共同親権などを取り上げる。女性同士でニュースを語るポッドキャスト「ホンマのホンネ」MC。

19



4/26 (土) 16:50-18:10

井深大記念ホール

ドキュメンタリーを作り続ける力 —業務との両立、映画化方法等—

「ヤクザと憲法」「さよならテレビ」等数々の名ドキュメンタリーを制作してきた東海テレビの土方氏。年5本の作品を出し、石丸伸二市長時代の安芸高田市政の密着を映画化(公開直後に都知事選立候補で波乱も)した広島ホームテレビの立川氏。日々の業務もある中で、複数の作品を作り上げ、多メディア展開まで、どうやって仕事を回し、周りを説得して巻き込んでいくのでしょうか。2人の実例に触れ、「次は自分が」につなげます。

立川直樹

たちかわ・なおき

広島ホームテレビ
報道部プロデューサー

2001年入社。05年から報道部。記者、テレビ朝日出向、デスク。08年から被爆伝承・核廃絶・防災・地方政治などをテーマにドキュメンタリーを延べ30本ほど制作。23年「原爆資料館 閉ざされた40分～検証G7広島サミット～」で日本民間放送連盟賞優秀。24年、プロデューサーを務めた「#つぶやき市長と議会のオキテ【劇場版】」が全国公開。

土方宏史

ひじかた・こうじ

東海テレビ
報道部 プロデューサー

1976年生まれ。岐阜県出身。98年東海テレビ入社。制作部で情報番組などのディレクターを経験したのち2009年に報道部に異動。14年に公共キャンペーン・スボット「震災から3年～伝えつづける～」でギャラクシー賞CM部門大賞。15年「戦争を、考えつづける。」でACC TOKYO CREATIVITY AWARDSグランプリ(総務大臣賞)を受賞。14年に『ホームレス理事長～退学球児再生計画～』でドキュメンタリー映画を初監督。16年に映画「ヤクザと憲法」。20年に映画「さよならテレビ」を公開。24年に映画「その鼓動に耳をあてよ」で初プロデューサー。

20



4/26 (土) 16:50-18:10

第1会議室

関俊一

せき・しゅんいち

読売新聞大阪本社
社会部次長

1975年大阪生まれ。98年に読売新聞大阪本社に入社し、徳島支局、神戸総局を経て2004年に大阪社会部。東京社会部と京都総局を挟み、大阪社会部には通算15年間に在席し、主に調査報道と事件報道に携わってきた。18年から調査報道担当デスク。データ報道にも取り組む。

SNSと選挙取材を考える 兵庫県知事選の取材メモから

「ネットで真実を知った」。そんな有権者の声が選挙結果を左右する事態が現実になりました。読売新聞大阪社会部では、兵庫県知事選前から、SNSが選挙結果に影響することを想定し、現場とSNS双方で取材と分析を重ね、連載「SNSと選挙」を始めました。ネットに真実はあったのか。あのうねりはなぜ起きたのか。反メディア感情の源流は。取材メモと分析結果をもとに選挙取材のあり方を考えます。

21



4/26 (土) 16:50-18:10

第2会議室

秋山理砂

あきやま・りさ

神奈川新聞
取締役（編集・論説・経営企画・デ
ジタル編集・システム担当）

1989年神奈川新聞社入社。市民情報部長、文化部長、統合編集局局次長を経て、2021年取締役経営戦略本部事務局長、22年取締役統合編集局長。24年より現職。24年11月に発足した一般社団法人 日本女性記者協会代表理事。

石橋学

いしばし・かく

神奈川新聞
川崎支局編集委員

1971年生まれ。94年入社。報道部、運動部などを経て2018年から川崎支局編集委員。連載「時代の正体」取材班として15年度平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞、16年度JCJ賞、20年度新聞労連ジャーナリズム大賞特別賞を受賞。共著に『ヘイトデモをとめた街 川崎・桜本の人びと』（現代思潮新社）、『「帰れ」ではなく「ともに」 川崎「祖国へ帰れは差別」裁判とわたしたち』（大月書店）など。

反ヘイト報道 なぜ訴えられどう対応したか

ヘイトスピーチ解消法が施行されて9年。ヘイトスピーチ被害は深刻な社会問題としてあり続けています。そうした中、被害の実態を積極的に報じる記者も標的とされ、訴訟を提起される事態も生じています。実際に訴訟に直面した神奈川新聞の石橋学記者と、差別根絶のために報じ続けることと訴訟に屈しない旨を対外的に発信した同紙の秋山理砂編集局長（当時）を迎え、反差別報道と訴訟対応の経験を共有してもらいます。

22



4/26 (土) 16:50-18:10

第3会議室

菅野蘭

かんの・らん

毎日新聞
記者

福岡報道部、デジタル報道センターなどを経て、2024年から社会部東京グループ。関心はトラウマと心のケア、性暴力、犯罪被害者支援。22年3月～毎日新聞ポッドキャスト「今夜、BluePostで」を担当。

持続可能な 報道ポッドキャスト交流会

ポッドキャスト配信を始めたはいいものの、ノウハウや組織的な支援がないといった事情で番組継続に頭を悩ます担当者はいませんか。この時間は、会社を越えて「相談できる仲間作り」のための交流会です。収録や編集のテクニックといった基礎的な問題から、運営体制やマネタイズまで日々直面している課題を共有し、解決策を話し合います。ラウンドテーブル方式での開催で、ファシリテーターは毎日新聞の菅野蘭記者が務めます。

23

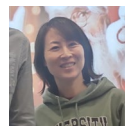


4/26 (土) 16:50-18:10

共同研究室7

石原真樹

いしはら・まさ

東京新聞
記者

神奈川県出身。2003年4月中日新聞社入社。三重総局、東京本社文化芸能部、社会部、鎌倉通信部、中日新聞労働組合専従など。24年10月から1年間休職し英国シェフィールド大学に留学、MAグローバル・ジャーナリズムコースを履修。25年10月に東京社会部復帰予定。

宮崎稔樹

みやざき・としき

スローニュース
編集者

長崎県出身。2014年4月に毎日新聞に入社し、福島支局で震災・原発事故報道、東京経済部でIT業界やデジタル経済などを担当した。20年10月に独立行政法人国際協力機構（JICA）へ転職後は2年間、フィリピンの平和構築やメディア支援に従事。英イーストアングリア大学院で修士号（メディアと国際開発）を取得した後、23年10月から調査報道とノンフィクションを支援するスローニュースの編集者として働いている。早稲田大学社会科学部卒。

海外留学ヘルプデスク ～挑戦を阻む4つの壁をどう乗り越えるか～

海外留学を阻む壁はいくつも存在します。その最たるものが①留学先の選び方②英語学習③費用の工面④社内調整——でしょう。このゼミ形式の講座では、そんな壁を打破するための実践的なノウハウを留学経験者が共有します。出願戦略や「純ジャパ」の英語勉強法、給付型奨学金の探し方まで様々な相談に応じます。検討中の方から留学が目前に迫った方の参加も大歓迎！大きな経験を得るための一歩を共に踏み出してみませんか？

24



4/27 (日) 9:30-10:50

井深大記念ホール

簀智広太

はたち・こうた

NHK
記者

1989年生まれ。慶應義塾大学卒業後、朝日新聞社に入社。京都・熊本総局を経て、2016年にインターネットメディアBuzzFeed Japanにうつり、ファクトチェック取材を開始。ニュースチームの解体に伴い退社後、23年10月にNHKに入局し、デジタル調査報道とフェイク対策を担当。24年8月から報道局・機動展開プロジェクトに所属し、おもにサタデーウォッチ9の「デジポリ」コーナーに注力している。

ニュースメディアのための ファクトチェック実践講座

偽情報・誤情報の拡散は深刻化する一方です。今年は大型選挙も予定されており、ファクトチェック報道の重要性はますます高まっています。しかし、日本ではメディアによる実践は少ないままです。「どうしたらいいの」と戸惑う報道実務家も多いかもしれません。BuzzFeed JapanとNHKでフェイク情報と向き合ってきた簀智広太さんに、視点の置き方やツールの使い方など実践的なスキルを紹介していただきます。

岩澤倫彦

いわさわ・みちひこ

フリージャーナリスト
岩澤倫彦事務所・代表

テレビ朝日やフジテレビの報道番組に2014年まで所属。血液製剤によるC型肝炎の調査報道で新聞協会賞、米・ビーボディ賞などを受賞。15年からはフリージャーナリストとして、歯科治療、がん検診、がん自由診療などをテーマに取材。22年4月の週刊文春で、東京女子医科大・元理事長の不正資金をスクープする。同年7月から文春オンライン「東京女子医大の闇」シリーズを連載中。著書は「がん「エセ医療」の闇」(文春新書)など。

足かけ7年「東京女子医大の闇」 を暴き続けたスクープの裏側

東京女子医科大の「女帝」と呼ばれた岩本絹子・元理事長が1月、背任容疑で逮捕されました。岩澤倫彦さんがこの問題の端緒に接したのは2018年。その2年後から週刊東洋経済と週刊文春で、理不尽な人事や不正な金の流れといった病院経営の暗部を暴き続けてきました。圧倒的な数々のスクープを支えたのは、粘り強い取材で得た内部資料や証言。「大きな失敗もあった」という取材の経緯と内幕を語っていただきます。

26



4/27 (日) 9:30-10:50

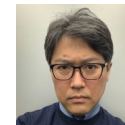
第2会議室

政治とカネの取材ポイントが 一目瞭然! ベテラン記者に基礎を学ぶ

政治とカネの問題が後を絶ちません。でもこの分野の取材が未経験だという記者も多いのではないのでしょうか。そんな人のために、島根県、長崎県、岡山県と行く先々で有力政治家の問題を暴き出して畏怖されている名物記者、NHKの安井俊樹さんが基本の取材テクニックを叩き込んでくれます。収支報告書のチェックポイントから、政治家に直当たりする際の手法まで、目から鱗の分かりやすい解説をしてくれます。

安井俊樹

やすい・としき

NHK 岡山放送局
記者

2001年NHK入局。報道局科学文化部で文化取材を担当した後、2度目の勤務となる松江局で「政治とカネ」をテーマに調査報道を始める。島根県議会議員の政務活動費をめぐる不正などを暴き、長崎局では社会福祉法人での政治献金強制問題を明らかにした。岡山局では県知事後援会の不正をスクープ。現在はPFAS問題も取材している。

27



4/27 (日) 9:30-10:50

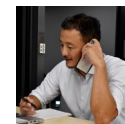
第3会議室

一時は上司から取材ストップも 冤罪事件を追った記者の 全内幕

捜査員が法廷で「捏造」とまで言った大川原化工機の冤罪事件。立件に不利な温度実験データの隠蔽、取調官が「あいつは気づかない」と赤裸々に語る内部メモ——。毎日新聞の遠藤浩二記者のスクープは内部資料や証言に基づく歪んだ捜査の実態に加え、警視庁が内部告発者に身分の開示を執拗に迫っていたことや、捜査検証のためのアンケートを廃棄した事実など事後の内情にまで至りました。一連の取材の裏側を明かしてもらいます。

遠藤浩二

えんどう・こうじ

毎日新聞
社会部専門記者

1982年横浜市生まれ。2008年、毎日新聞入社。鳥取支局、大阪社会部、特別報道部を経て、21年から東京社会部。大阪社会部では大阪府警捜査1課、捜査2課、大阪地高裁を担当。特別報道部ではハイオクガソリン混合出荷などを取材。著書に警察庁長官狙撃事件と大川原化工機冤罪事件を追った「追跡 公安捜査」(毎日新聞出版)。高校時代に「SASUKE」に出場経験あり。座右の銘は「筋トレと夜回りは嘘をつかない」。

28



4/27 (日) 11:10-12:30

井深大記念ホール

オープンデータ活用術 「改訂版」にも未掲載の 最新テクニック!

今や取材に必携の『記者のためのオープンデータ活用ハンドブック』。著者の熊田さんによる恒例の名物講座です。初めて参加する方のための基礎的な取材テクニック、ツールの紹介に加えて、去年10月の改訂版にさえ載っていない最新テクニックを多数解説してくれるとのこと。とにかく数多くの手法を詰め込んだ講座なので、若手記者からベテランまで、必ずや一つは役立つものが得られるのではないのでしょうか。

熊田安伸

くまだ・やすのぶ

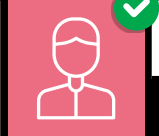
スローニュース

シニアコンテンツプロデューサー



1967年岐阜市生まれ。90年NHK入局。沖縄局、報道局社会部で「公金」の調査報道。新潟局、仙台局で震災報道を指揮。2006年、スクープをめぐる民事訴訟で取材源秘匿を認める最高裁の初判断を勝ち取る。17年、NHKの公共メディア化に尽力、「政治マガジン」「取材ノート」など開発・運営。21年、スローニュースに移籍。NHKスペシャル『追跡 復興予算19兆円』でギャラクシー大賞など。著書に『記者のためのオープンデータ活用ハンドブック』（新聞通信調査会）。

30



4/27 (日) 11:10-12:30

第2会議室

スクープ連発! 報道特集の 政治とカネ報道の裏側

岸田首相の地元にある任意団体による裏金問題や、二階氏が大量購入した本の行方、そして自由民主党の非公認候補が交付金を選挙資金に投じていた疑惑など、TBSの報道特集は政治とカネにまつわるスクープを次々と発信しています。また系列のチューリップテレビも地元富山県の自民党員の水増し疑惑などをスクープ。なぜこれほどまでに骨太の報道が続けられるのか。その背景と手法を明らかにしてもらいます。

毛田千代丸

けだ・ちよまる

チューリップテレビ

「ニュース6」キャスター



2012年、富山県のTBS系列チューリップテレビに入社。アナウンサー兼記者として警察・司法、政治経済の分野などを担当。現在、平日夕方の報道番組「ニュース6」のキャスター。22年、旧統一教会と県知事の関係や選挙応援の実態を取材。「旧統一教会をめぐる調査報道」で第60回ギャラクシー賞報道活動部門優秀賞。去年11月、県選出国会議員の幽霊党員問題をスクープ。12月に報道特集「音声データを独自入手 自民党「幽霊党員」問題を検証」を放送。1985年、富山県生まれ。元新聞記者。

成田広樹

なりた・ひろき

TBS テレビ

報道局調査報道部ディレクター



TBS報道局調査報道部「報道特集」所属。番組制作、報道局外信部、社会部国土交通省担当記者を経て、2023年4月から報道特集ディレクター。旧統一教会の問題や自民党派閥の裏金問題の調査報道キャンペーン放送などを担当。

29



4/27 (日) 11:10-12:30

第1会議室

「メディア不信」にどう向き合うか

既存メディアへの不信が高まっています。新聞・テレビは「既得権益」とみなされ、災害や事件・事故の現場、記者会見での記者の振る舞いにも非難が集まります。人々の厳しい視線の背景に何があるのか。報道実務家はどう向き合ったらいいのか。「不寛容な寛容社会」などのキーワードでマスメディア批判を分析してきた津田正太郎さんと考えます。社会人院生としてメディア不信を研究する日下部聡・毎日新聞論説委員がMCを務めます。

津田正太郎

つだ・しょうたろう

慶應義塾大学

メディア・コミュニケーション研究所

教授



1973年生まれ。大阪府出身。慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。博士（法学）。財団法人国際通信経済研究所、法政大学社会学部を経て現職。専門はメディアコミュニケーション論。主要著作は『ナショナリズムとマスメディア』（勁草書房、2016年）、『メディアは社会を変えるのか』（世界思想社、2016年）、『ネットはなぜいつも揉めているのか』（ちくまプリマー新書、2024年）など。

日下部聡

くさかべ・さとし

毎日新聞

論説委員



1993年毎日新聞社入社。浦和支局、サンデー毎日編集部、東京・大阪両社会部、デジタル報道センター長などを経て現職。2016年に「『憲法解釈変更の経緯 公文書に残さず』など内閣法制局をめぐる一連の報道」で新聞労連ジャーナリズム大賞とICI大賞。16～17年英オックスフォード大学ロイタージャーナリズム研究所客員研究員。著書に『武器としての情報公開』（ちくま新書）『記者のための情報公開制度活用ハンドブック』（新聞通信調査会）。24年から大阪大学大学院人間科学研究所社会心理学研究室でメディア不信を研究。

31



4/27 (日) 11:10-12:30

第3会議室

より良い被害者取材を求めて

事件や事故が起きるたび、被害者らのもとへメディアが押し寄せ、苦しめることがありました。近年は、被害者らの人権に配慮した報道も増えてつありますが、報道被害がなくなったとは言えません。登壇者の加藤美喜さんは、愛知県豊明市で起きた母子4人殺人放火事件の発生直後から遺族らに丁寧に向き合い、取材を続けて20年になります。被害者らの信頼を得ながら取材を続けるにはどうしたらいいのか、秘訣を語っていただきます。

加藤美喜

かとう・みき

中日新聞

編集委員



茨城県生まれ。1995年に中日新聞に入社。主に社会部で警察、司法、遊軍、デスクなどを担当。2002～03年、フルブライト奨学金（ジャーナリストプログラム）を得て米シガン州立大学で被害者報道を学ぶ。ニューヨーク、ロンドン両特派員を経て23年9月から編集委員。未解決事件である「愛知県豊明市母子4人殺人放火事件」の遺族の思いや捜査の検証などをテーマにした連載「風化とたたかう」を担当。

32



4/27 (日) 11:10-12:30

共同研究室7

外山薫

とやま・かおる

テレビ朝日

ABEMA ニュースプロデューサー



2003年テレビ朝日入社。夕方ニュース番組ディレクター、経済部記者、ニューヨーク特派員などを経てABEMA ニュース。テレ朝ポッドキャスト「ホンマのホンネ」でニュース解説や、テレ朝YouTubeで日銀総裁解説なども手掛ける。

松井健太郎

まつい・けんたろう

共同通信

大阪支社社会部次長



2006年入社、高松支局、神戸支局、大阪社会部、本社社会部で記者。

仕事のモヤリをシェアして 処方箋を考えよう (U49 限定)

なんで上の年代はわからないの？ 新世代との付き合い方どうしたら…この働き方でいいの？ 業界先行きは…尽きないモヤモヤを皆でシェアしましょう。単なる愚痴の場に終わらず、Yes,And!で解決策を探るため、QRコードリンク先からの事前アンケートにご協力下さい。可視化(匿名OK、当日リアル告白大歓迎)して、社や年代を超えて処方箋を考えましょう。オンライン配信なしだから言えること、聞けることがあります。



33



4/27 (日) 13:30-14:50

井深大記念ホール

曹琴袖

ちよう・くんず

TBS テレビ

制作プロデューサー兼編集長



1995年にTBSに入社。夕方のニュース番組やNY支局、「報道特集」で記者やディレクターを務める。2020年7月から「報道特集」の編集長に就任。「東京五輪」「旧統一教会と政治」などの調査報道キャンペーンを指揮。

兵庫県知事選中 SNSで拡散したデマを どう報じたのか

次々と根拠不明のデマをSNSで拡散させ、政治家や記者にも個人攻撃を続ける。いまそんな発信が横行しています。2024年の選挙を通して、マスメディアとSNSの影響力が完全に逆転したという総括がなされました。そんな中でTBSの報道特集は、知事選中にSNSで拡散された内容を検証する特集番組を連続して放送し、「これこそメディアの役割を果たすということだ」と高い評価を受けています。曹琴袖編集長に登壇していただき、内幕を語ってもらいます。

34



4/27 (日) 13:30-14:50

第1会議室

一歩先行く 情報公開制度活用法

情報公開制度、使ってはみたけれどこんなもの…？ 文書が少ししか出てこなかった、あると思うのに「不存在」、対象文書が多すぎて待たされた割にたいしたものがない…。こんな経験、ありますよね。情報公開請求の「達人」たちはそれらをどう切り抜けるのか。記者の相談に乗ることも多い情報公開クリアリングハウス理事長、報道実務家フォーラム理事の三木由希子さんにコーチしていただきましょう。

三木由希子

みき・ゆきこ

NPO 法人情報公開クリアリングハウス
理事長

NPO法人情報公開クリアリングハウス理事長、専修大学客員教授。情報公開制度や公文書管理制度、個人情報保護制度など、公的機関に対する知る権利の確立のため、調査、政策提案、意見表明、制度利用者支援などを行う。自治体の審査会等の委員も務める。

35



4/27 (日) 13:30-14:50

第2会議室

超初心者でもできる！ 地図で防災情報やデータを 可視化しよう

2024年1月の能登半島地震を受け、中日新聞は「孤立予想集落マップ」「中部9県耐震化率」など、防災情報を地図に落とし込んだコンテンツをウェブで多数公開しました。無料で使えるソフト「QGIS」とウェブツール「Flourish」のおかげで、誰でも地図を活用したデータ報道ができる時代です。要領さえ分かれば、アナログな記者でも大丈夫。自身も初心者の講師がコンテンツの制作過程とノウハウを共有します。

角雄記

すみ・ゆうき

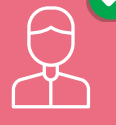
中日新聞

デジタル編集部記者



1982年岐阜市生まれ。2006年に中日新聞に入り、東海本社報道部を振り出しに、新居支局(現・湖西支局)、三重総局、北陸本社報道部、大津支局、社会部を経て23年夏からデジタル編集部。元看護助手の西山美香さんが再審無罪になった呼吸器事件(湖東記念病院事件)を巡る報道で、第19回石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞の草の根民主主義部門 大賞。デジタル編集部では苦手のExcelと格闘しながらデジタルコンテンツを制作中。

36



4/27 (日) 13:30-14:50

第3会議室

クラブ詰め記者が 「府警本部長『殺すぞ』暴言」 スクープを放つまで

京都府警本部長が部下に「殺すぞ」と発言しました。明らかにしたのは京都新聞の府警担当記者たちでした。2024年10月1日に特報すると、2日後には警察庁が本部長の事実上の更迭を発表し、パワハラであることも認めました。不祥事を地道に書き続けてきたことがスクープの背景にありました。何のために厳しい警察取材を続けるのか。「疑問を持つ若手記者たちのヒントになれば」とキャップの上口祐也記者が経緯を語ります。

上口祐也

うえぐち・ゆうや

京都新聞
記者

2007年京都新聞社入社。支局3カ所とニュース編集部（整理部）を経て、16年秋から報道部。京都アニメーション放火殺人事件や医師2人が起こしたALS患者囁託殺人事件を取材。京都市政と京都府政を担当後、2度目の事件担当となり、現在は京都府警キャップ。

38



4/27 (日) 15:10-16:30

井深大記念ホール

しっかり報じるためのメディア法 報道のため闘う弁護士が 語ります

記事に弁護士が助言…といっても「やめておけ」「削るべきだ」ではありません。「これは大丈夫」と励ましたり「報じ方の工夫」「補強取材」などをアドバイスしたりし、「しっかり報じるための法的支援」をするのが本来のメディアローヤーです。欧米では「弁護士が助言せず現場判断すると、過度に安全策をとり保守的(書かない方向)になる」という指摘もあるほど。週刊文春の代理人でもある喜田村洋一弁護士に話していただきます。

喜田村洋一

きたむら・よういち

ミネルバ法律事務所
弁護士

1975年、東京大学法学部卒。81年、ミシガン大学ロースクール卒。民主社会を維持・発展させていくため、メディアには三権とは異なる独自の役割が期待される。それを担うメディアを育てるため、「負けない記事」の書き方を学び、言論の自由ではなく「自由な言論」の実現を目指す。

37



4/27 (日) 16:50-18:10

共同研究室7

記者・デスクのための 法的支援団体を弁護士と語ろう

日々の取材や業務で弁護士に相談したいと思ったことはありますか？ 皆さんが何に悩み、どのような窓口やしくみがそれに対応することができるのか。報道の自由を守りたい弁護士と語りましょう。米国で相談に応じる「報道の自由のための記者委員会」という団体の日本版構想も含め、やり方を見つけていきます。記者への誹謗中傷も喫緊の課題として取組みを始めます。

※会場でも相談コーナーをつくりますので、お気軽にお立ち寄り下さい。
また、法的支援へのご意見をQRのアンケートからお知らせください。



池田雅子

いけだ・まさこ

桑原・池田法律事務所
弁護士

トロント大学人文科学部卒。早稲田大学大学院法務研究科修了。日本弁護士連合会人権擁護委員会人権と報道に関する特別部会などで、報道の自由と人権の調和をめぐる問題に取り組んでいます。

廣田智子

ひろた・ともこ

麻布十番法律事務所
弁護士

早稲田大学政治経済学部卒。日本弁護士連合会人権擁護委員会人権と報道に関する特別部会などで、報道の自由と人権の調和をめぐる問題に取り組んでいます。

澤康臣

さわ・やすおみ

早稲田大学
教育・総合科学学術院教授

1990～2020年共同通信記者。タックスヘイブンの秘密を明かした「パナマ文書」報道のほか、「外国籍の子ども1万人超の就学不明」「戦後憲法裁判の記録、大半を裁判所が廃棄」などを独自取材で報じた。著書に「事実はどこにあるのか 民主主義を運営するためのニュースの見方」(幻冬舎新書)、『グローバル・ジャーナリズム 国際スクープの舞台裏』(岩波新書)、翻訳書に『ジャーナリストの条件 時代を超える10の原則』(新潮社)。

39



4/27 (日) 15:10-16:30

第1会議室

vs厚生労働省 情報公開、 黒塗りめぐる5年の攻防

2018年、加藤勝信厚生労働相(当時)の国会答弁の真偽をめぐり、朝日新聞の賛川俊記者は情報公開を請求しました。ところが厚労省は応じない姿勢を続け、訴訟にまで発展しました。記者にとって情報公開訴訟の意義や課題とは——。多くのハードルがある中、訴訟に踏み切った経緯やその過程、国との5年にわたる攻防について、語っていただきます。

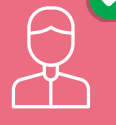
賛川俊

にえかわ・しゅん

朝日新聞
社会部

2006年入社。秋田、岐阜、名古屋を経て、東京社会部や経済部でもにも調査報道や労働問題を担当。政治とカネの問題や16～18年の「働き方改革」などを取材した。埼玉では、いのちの電話や生活保護の扶養照会についての連載記事も。共著に『ドキュメント「働き方改革」』(2019年、旬報社)。

40



4/27 (日) 15:10-16:30

第2会議室

横田増生

よこた・ますお

フリーランス
ジャーナリスト

1965年、福岡県生まれ。アイオワ大学ジャーナリズムスクールで修士号。2020年に『潜入ルポ amazon帝国』（小学館）で新潮ドキュメント賞、22年に『「トランプ信者」潜入一年 私の目の前で民主主義が死んだ』（小学館）で山本美香記念国際ジャーナリスト賞を受賞。近著に『潜入取材、全手法 調査、記録、ファクトチェック、執筆に訴訟対策まで』（角川新書）。

潜入取材の達人が ユニクロや兵庫県知事選を どう取材したのか

ユニクロやアマゾン、そして米大統領選のトランプ陣営に潜入取材したフリージャーナリストの横田増生さん。唯一無二の報道とされていていますが、横田さんによれば「イギリスでは日常的に行われているし、日本でも誰でもできるはず」と語ります。その手法や、法的対策はどのようにしているのかを披露してもらうとともに、その延長線上にある兵庫県知事選の取材についても語っていただきます。

41



4/27 (日) 15:10-16:30

第3会議室

大場弘行

おおば・ひろゆき

毎日新聞
社会部記者

2001年入社。大阪社会部、サンデー毎日などを経て現在、東京社会部の国会担当。取材班のメンバーとして、「公文書クライシス」で「第19回石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」、「特権を問う～日米地位協定60年」で「第26回新聞労連ジャーナリズム大賞」を受賞。

小沢慧一

おざわ・けいいち

東京新聞
記者

コスモ石油株式会社を経て2011年に中日新聞（東京新聞）入社。東京社会部東京地検特捜部・司法担当、同部科学班・防災担当・東京ニュース担当などを経て現在デジタル編集部。30年以内に「70～80%」とされる南海トラフ地震の発生確率が「水増し」されているという問題を追った連載や、一連の報道を書籍化した『南海トラフ地震の真実』（東京新聞）は、20年に「科学ジャーナリスト賞」、23年に「第71回菊池寛賞」、24年に「新潮ドキュメント賞」をそれぞれ受賞。

今や取材の常道！ 刑事裁判記録の閲覧で スクープを書くには

今や重大事件では各社とも当然のように刑事裁判記録の閲覧をかける時代に。そんな中、東京新聞の小沢慧一記者は「桜を見る会」「黒川検事長の賭け麻雀」「鶏卵汚職事件で西川農相も受領」など次々とスクープを放っています。取材のノウハウと最新記事の背景を語っていただきます。また、初めて挑戦して「麻生派にも裏金」のスクープをものにした毎日新聞の大場弘行記者にも「誰にでもできる」ポイントを語っていただきます。

42



4/27 (日) 16:50-18:10

井深大記念ホール

メディアはどうすれば 生き残れるのか？ コンサルから見た課題とは

読者の減少、取材リソースの不足、メディア不信による環境の悪化…メディアはいま、かつてない窮状にあります。では何が課題で、どのように解決すべきなのか。NHK政治部のエース記者からコンサルファームに転身し、現在はメディア各社の支援を担当する栗原岳史さんに登壇してもらい、メディアの内情を知るマネージャーの立場から見た現在のメディアの課題や、解決の処方箋を語ってもらいます。

栗原岳史

くりはら・たけし

PwC コンサルティング
マネージャー

NHK政治部記者、海外特派員などを経て2022年より現職。メディア企業（放送、出版等）のコンテンツ海外展開、データ活用、コンテンツ制作業務改革、新規事業開発などの支援を行っています。

43



4/27 (日) 16:50-18:10

第1会議室

内部告発への対応どうするか 鹿児島県警と兵庫県から 教訓を学ぶ

記者や報道機関は内部告発にどう対応するべきか。公益通報者保護法をどう役立てるか。鹿児島県警や兵庫県の事例をもとに考えます。鹿児島県警はインターネットメディアの事務所を家宅搜索して、内部告発を把握し、告発者を逮捕。兵庫県は、目星をつけた職員のパソコンを押収し、告発者を特定して処分。あつてはならないことが起きたこの1年余を検証します。

横枕嘉泰

よこまくら・よしひろ

KKB 鹿児島放送
報道部専任部長

読売新聞西部本社・警察司法キャップを経て、2005年朝日新聞へ。特別報道チーム、経済部（日銀、農水省など）、政治部（平河）、仙台総局・東北総括次長などを経て、24年4月より出向・現職。経済部著に「追い出し部屋」などを追及した『限界につぼん 悲鳴をあげる雇用と経済』（岩波書店）、高齢者福祉の問題に迫った『ルポ 老人地獄』（文春新書）など。放送記者として鹿児島県警不祥事を追った「テレメンタリー2024『秩序と闇 それは犯罪か、内部告発か』」ディレクター。

奥山俊宏

おくやま・としひろ

上智大学
教授

1989～2022年、朝日新聞記者33年（社会部、特別報道部など）。2022年から上智大学文学部新聞学科教授。著書に『内部告発のケーススタディから読み解く組織の現実 改正公益通報者保護法で何が変わるのか』（朝日新聞出版）、『バブル経済事件の深層』（岩波書店）、『秘密解除 ロッキード事件 田中角栄はなぜアメリカに嫌われたのか』（岩波書店）など。司馬遼太郎賞、日本記者クラブ賞を受賞。



一宮俊介

いちみや・しゅんすけ
弁護士ドットコム
ニュース編集部・記者



1990年、宮崎県延岡市生まれ。熊本大学法学部を卒業後、2015年に毎日新聞社入社。青森支局、福岡報道部、宮崎支局、東京社会部を経て、24年2月に弁護士ドットコムに転職。クレプトマニア、重大事件を起こした少年、無期懲役囚、連続放火犯、いじめ自殺などを取材。地域に根差した持続可能なメディアとそのネットワークを作ることを目指しています。

無期懲役囚たちと 文通を続ける記者に ノウハウを聞く

弁護士ドットコムの一宮俊介記者は、重要事件で収監されている無期懲役囚たちと手紙を交わし続けています。新幹線内で無差別殺傷事件を起こした受刑者などとも対話し、次々と記事化。受刑者の収監先をどのように割り出し、どうやって手紙を送り、どんな文面だと返事をもらいやすいのか。受刑者たちのどんな言葉を社会に伝えようと考えているのか。その取材ノウハウを余すところなく紹介していただきます。

参加者の声

- ・記者・編集者の情熱を感じられる貴重な場。一度参加すれば、仕事への向き合い方が変わるはずです
- ・ジャーナリズムを守るために組織を超えた協業の時代になったと感じる
- ・報道の未来と必要性を多様な目線から考えられるイベント
- ・「マスゴミ」偏見に打ち克つための志と術がある
- ・他社の方々の頑張りに励まされ、エネルギーをいただける貴重な場です
- ・キーワードは「目指せ!クセ強ジャーナリズム」
- ・充実した講義ばかりで、とても刺激的で取材への熱意がわいてきました
- ・国内でこれだけ多くのジャーナリストが世代を超えて、自主的に集まる機会はないと思います。それだけでも参加する価値があります
- ・得た知識や手法、着想を会社に持ち帰って後輩や上司に伝えることで組織全体の取材力が上がると思った

早稲田大学 ジャーナリズム大学院 (政治学研究科ジャーナリズムコース)



Waseda University
Graduate School
of Journalism

デジタル時代のジャーナリズムを 実証研究できる大学院

早稲田大学は2008年に「修士（ジャーナリズム）」の学位を授与する日本初のジャーナリズム大学院として、大学院政治学研究科にジャーナリズムコース（J-School）を開設しました（その後、博士後期課程を設置）。メディアを取り巻く環境が激変するなか、デジタル時代の新しい環境を活用しながら公共の利益に貢献できる高度専門職業人としてのジャーナリストの育成をめざしてきました。近年は、エビデンスに基づくジャーナリズム・メディアの実証研究を柱とし、理論、実践の両面で最先端の教育・研究に取り組んでいます。

社会人向け特別AO入試や1年制コースを設置

現役メディア関係者が社会人学生として修士課程に入学するケースが増えています。「マス・コミュニケーション理論」や「ジャーナリズム史」などを体系的に学び、さらに「リサーチデザイン」「データの見方」「公共の哲学」といった方法論科目を選択履修することで、研究手法の習得をめざします。実務経験社会人向けにジャーナリズム特別AO入試（実務経験社会人）を実施しています。また、社会人を対象とする1年制コースを設置し、特別休暇制度などを利用して集中的に学ぶ制度を用意しています。

データ分析を活用できる人材を育てる

ジャーナリズム大学院は複数の育成目標を掲げています。その一つは、21世紀のデジタル技術を生かせる、「個」として強いジャーナリストの育成です。テキスト、写真、映像、ウェブを使いこなせるマルチメディアの人材、さらに調査報道やデータ分析に強い人材の育成に取り組んでいます。

もう一つは「専門ジャーナリスト」です。グローバル化し、複雑化する社会のなかで、その課題を「発見し、読み解き、伝える」ジャーナリストが必要とされています。専門性を習得するため「データ・ジャーナリズム」「政治」「経済」「科学・環境・医療」という4つの専門認定プログラムを設置しています。



Global Investigative Journalism Network

世界調査報道ネットワーク (GIJN) を通じて 世界視野のジャーナリストに

「世界調査報道ネットワーク」(GIJN) は世界の調査報道メディア、調査報道支援組織やジャーナリズム教育機関が参加する国際NPOです。報道実務家フォーラムも2019年から加盟しています。

GIJNは…

- ・調査報道・取材に役立つ資料の提供（一部は報道実務家フォーラムサイトで和訳を表示）
- ・取材・報道のスキルアップ講座の開催
- ・2年に1度の「世界調査報道大会」「アジア調査報道大会」の開催（世界大会は100超の国・地域から調査報道記者ら2000人規模の参加）

などを行っており、報道実務家フォーラム参加者の中にも大会参加経験を持つ人がかなりいます。英語は得意でなくともお互い記者同士、仕事の情熱や苦勞話はすぐ通じ、仲間のいる心強さを強く感じられます。

イベント案内や取材スキル資料はGIJNのウェブサイト gijn.org で入手できます。

日本中の仲間と報道実務家フォーラムでつながったら、今度は世界の仲間と繋がりたい！



2025 調査報道大賞

Investigative Journalism Award 2025

調査報道に取り組む現場を讃え、励まし、 ジャーナリズムの価値を社会に知ってもらう

力ある者の不正をはじめ社会問題を記者の調査で掘り起こし、報じる調査報道。ジャーナリズムが市民のためにあることを明確に示す仕事です。手間も時間もコストもかかり、実らず終わることも多いこの仕事にひたむきに取り組む現場を応援し、また、こうした仕事を通じ報道が社会に貢献していることを世の中にもっと知ってもらうため、2021年に報道実務家フォーラムがスローニュースと共同で創設したのが「調査報道大賞」です。今年で5回目になります。

第1次審査はこの報道実務家フォーラムに参加した報道実務家に投票していただきます。そこから選考委員が最終審査、受賞作を決定する流れです。

ぜひ、投票にご参加ください。方法はニュースレターでお知らせします。そして、今後の「調査報道大賞」受賞へ、どうぞご応募もお願い申し上げます。

主催：特定非営利活動法人報道実務家フォーラム、スローニュース株式会社
詳細・応募：調査報道大賞ウェブサイト <https://j-forum.org/award2025/>

就職活動支援ゼミ

報道の仕事に就きたい大学生、大学院生、転職を考えている社会人を対象に「就職活動支援ゼミ」を毎年開講しています。10月ごろから翌年夏ごろまで作文やエントリーシートの添削、面接練習などをします。

講師には元新聞労連委員長で労連作文ゼミの講師や責任者として多くの内定者を送り出してきた共同通信の新崎盛吾記者、報道実務家フォーラム運営メンバーの日下部聡・毎日新聞論説委員のほか、複数の現役記者が加わっています。

2023-2024年（37人受講）の内定実績

共同通信、九州朝日放送、NHK、読売新聞、信濃毎日新聞、朝日新聞、時事通信、日本経済新聞、新潟日報、北海道新聞、福島民友新聞、大分合同新聞、毎日新聞、福井新聞、山陰中央新報、河北新報、茨城新聞、千葉日報、中日新聞、岐阜新聞

東京都内でのリアル開催が基本ですが、関西や海外留学中の学生もオンラインで参加しています。中京圏の学生には名古屋市在勤の報道実務家フォーラムメンバーが相談に乗ります。

参加費

1人1期：5,000円

主催：特定非営利活動法人報道実務家フォーラム

問い合わせ先：shukatsu@j-forum.org

就職活動支援ゼミ2024-2025 サイト <https://j-forum.org/shukatsu2024/>



日本記者クラブからのお知らせ

「土曜記者ゼミ」今年度も2講座を5月開講！ 「サイバー記者ゼミ」もスタート！

公益社団法人日本記者クラブ（東京都千代田区内幸町）は、ジャーナリズム力の増強支援を目指して、会員社の現役記者を対象にした勉強会「土曜記者ゼミ」を開催しています。

2025年度も下記の2つの講座を5月に開講します。

「土曜記者ゼミ」は主に記者が講師となり、会社の垣根を越えて相互に経験やスキルを共有します。どちらも毎月1回、土曜日の午後15時にリアル会場とZoomでの同時配信のハイブリッド形式で開催します。

「サイバー記者ゼミ」はサイバーセキュリティの専門家が講師となり、記者と専門家との繋がり作りを行います。いずれも毎回終了後に、期間を定めて録画動画を限定公開する予定です。

調査報道

優れた調査報道の実践例を
経験者から学びます。

IT講座

取材・報道に役立つパソコンの
使い方を学びます。

サイバー記者ゼミ

取材に必要なサイバーセキュ
リティの基礎を学びます。

受講の希望や問い合わせは日本記者クラブ事務局・河野へ 電話 090-1732-8120 メール satoshikono0477@gmail.com



早稲田大学国際会議場

東京都新宿区西早稲田1-20-14

※東京メトロ東西線早稲田駅、
都営バス「西早稲田」「早稲田」バス停が最寄です。

- ・東京メトロ東西線早稲田駅から徒歩10分
- ・都営バス西早稲田バス停から徒歩3分
- ・都営バス早稲田バス停から徒歩5分
- ・高田馬場駅（JR、西武）から徒歩20分
- ・東京メトロ副都心線西早稲田駅から徒歩23分
- ・都電荒川線早稲田駅から徒歩5分

大隈ガーデンハウス

東京都新宿区早稲田鶴巻町538-13

懇親交流会

日時 4月26日(土) 19:00-21:00

場所 大隈ガーデンハウス

会費 5500円

仲間と出会い、プロ同士のネットワークを
築く場にしましょう!

【注意事項】

- ・本フォーラムは、記者、編集者、ディレクターなどが報道実務のスキルと知識を高めるため学び、話し合う場です。その趣旨と異なる目的では参加できません。申し込み後でも参加をお断りする場合があります。
- ・主催者による円滑な進行に協力し、その指示に従ってください。
- ・主催者や講師によるオフレコ指定があった場合は遵守してください。
- ・所属、立場、キャリアの長短と関係なく、お互いにリスペクトを十分にもったコミュニケーションをお願いします。
- ・フォーラムの趣旨に反する行為や、進行の妨げとなる行為があった場合、やむを得ず退出をお願いすることがあります。
- ・この注意事項を遵守いただくことが参加条件になります。

報道実務家フォーラム2025への助成・委託ありがとうございます



公益財団法人新聞通信調査会より、
報道実務家フォーラム2025を通じた研究委託を受けています



公益財団法人放送文化基金より、
2024年度助成【イベント事業】を受けています



公益財団法人電気通信普及財団より、
シンポジウム・セミナー等開催援助(社会)を受けています

報道実務家フォーラム2025はこちらのみなさまのご支援・ご協力・ご参加を受けています



(賛助会員)



(広報協力)



報道実務家フォーラムは「世界調査報道ネットワーク」(GIJN)に加盟しています
ウェブサイトで公開している「調査報道の手引き」をGIJNより提供、翻訳支援いただくなど協力をを受けています。